

第20回 大分県肝炎医療コーディネーター研修会

肝炎コーディネーターの活動の現状と課題

沖縄県 北部地区医師会病院 肝炎医療コーディネーター

漢那 香織



2次医療機関として沖縄県
北部地域（12市町村）の
急性期医療を担っている

北部地区医師会病院の現状

- ①健康管理中心が併設されているが二次検精査受診率が低い。
- ②肝疾患専門医療機関指定病院だが、肝臓専門医は非常勤のみ。
- ③生活習慣関連肝疾患が多い。
- ④高齢者や離島の方が多く、通院に関して地域の診療所との連携が欠かせない。
- ⑤HCV患者様への対応。(常勤の専門医がいない環境で)



これらの問題点を改善する、補完することを
目的に活動を進める

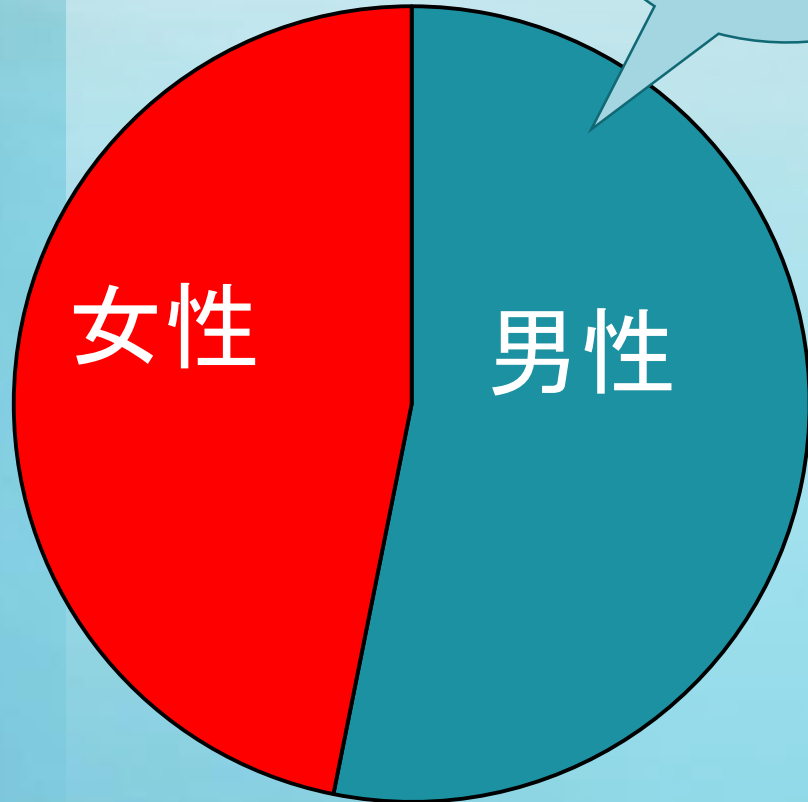
現状①

当院健康管理センターの受検率

n:41721

(対象期間:H29年4月1日からH30年3月31日)

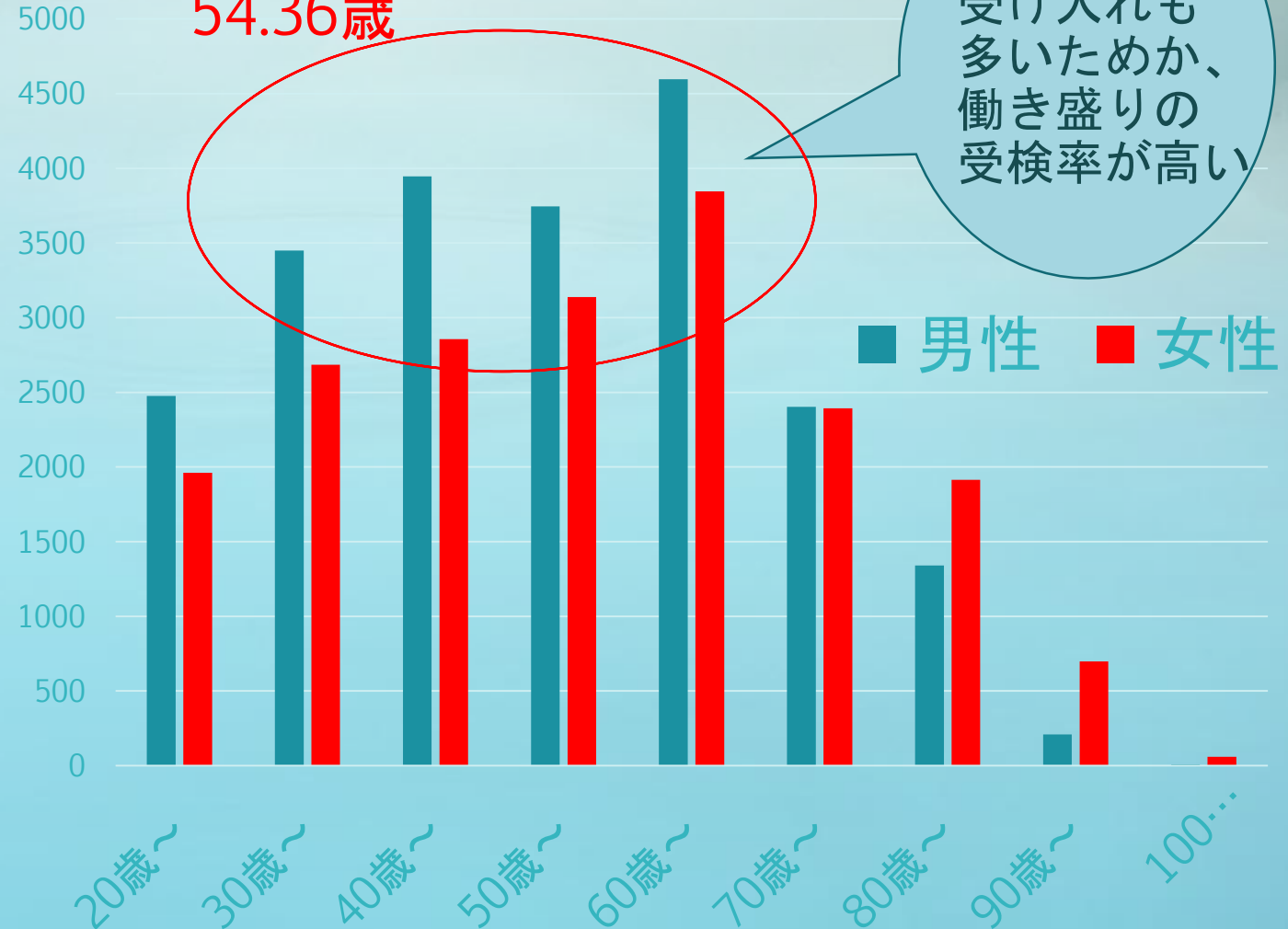
男女比



人口比率が
男性の方が
多いせい?

平均年齢
54.36歳

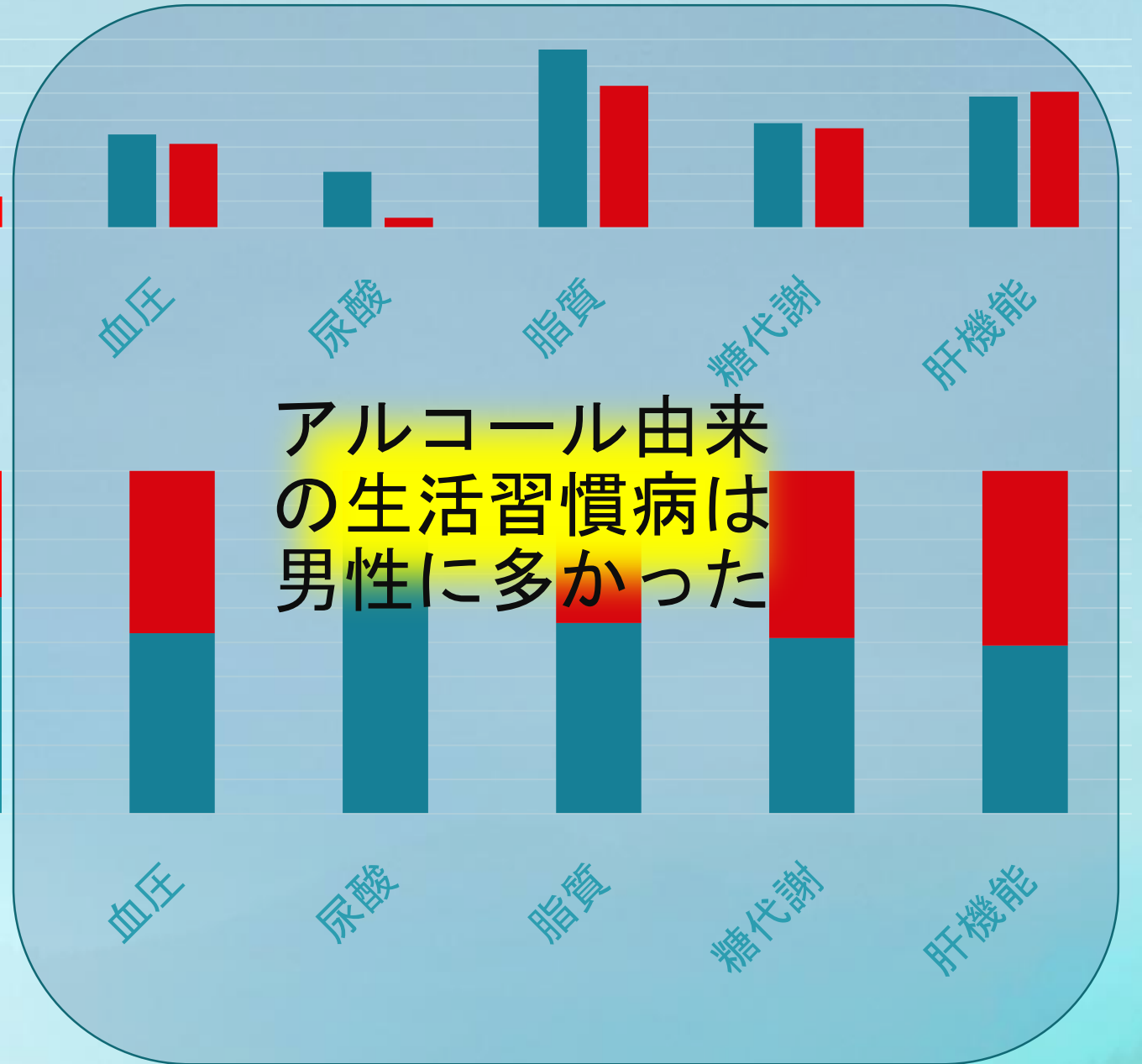
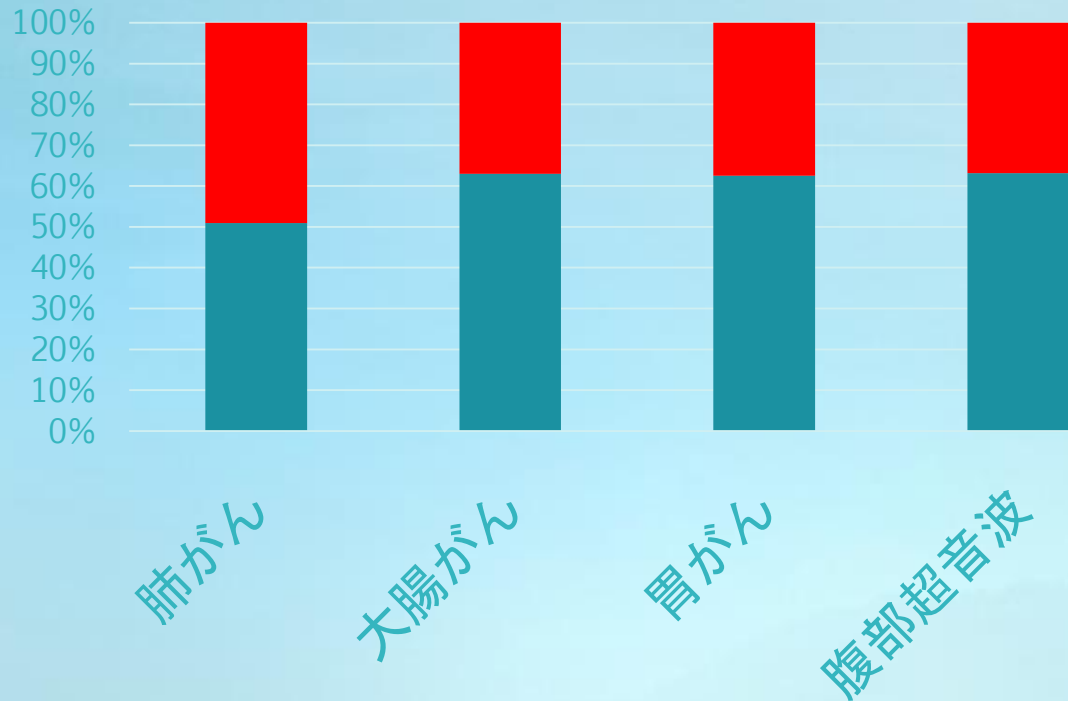
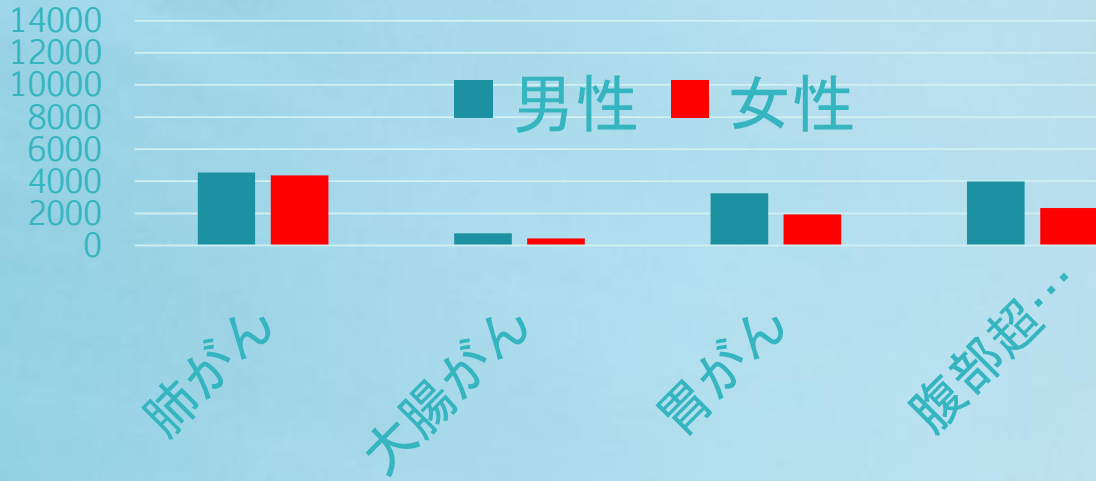
年齢別



企業健診の
受け入れも
多いためか、
働き盛りの
受検率が高い

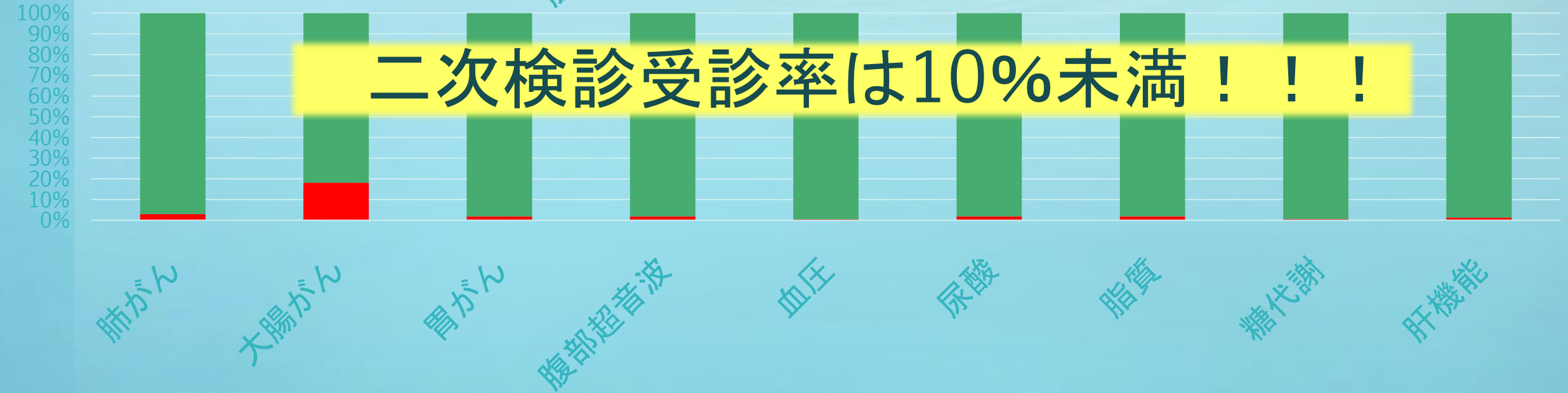
要指導者率（疾患別）

（対象期間：H29年4月1日からH30年3月31日）



アルコール由来
の生活習慣病は
男性に多かった

当院への受診率 (対象期間: H29年4月1日からH30年3月31日)



現状②

主な活動内容

受診 (二次検診)

生活指導
(栄養指導、飲酒量など)
検査内容の説明

診察前の説明で不安感を取り除く

受検

生活改善や通院の継続には個人差が大きい

フォローアップ

服薬状況の確認
定期検査の必要性を説明 (肝癌の早期発見)
定期受診の支援
(栄養士、MSW、薬剤師との連携)

受療

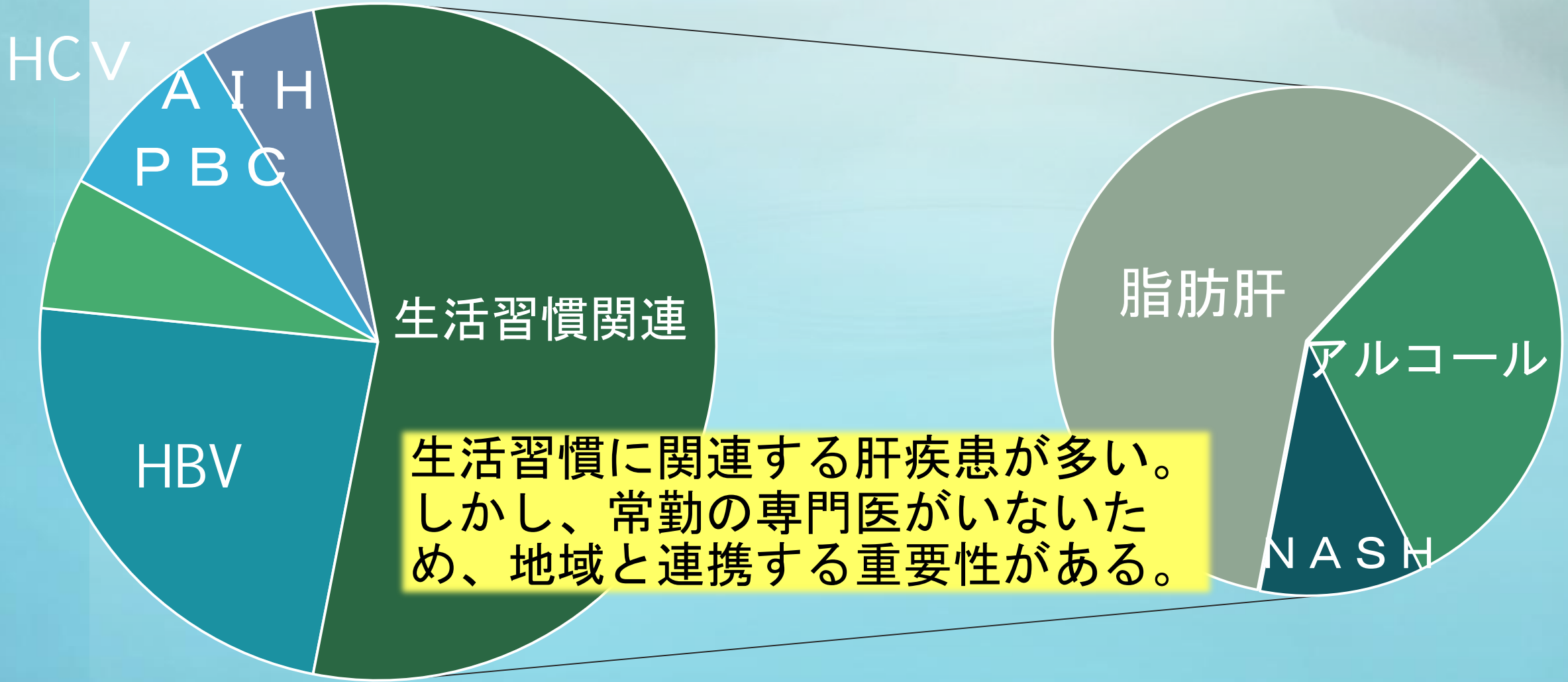
服薬指導
(投薬スケジュールの説明・指導)
パンフレットを用いた療養の説明
肝炎医療助成の説明
ウイルス疾患指導管理料の算定

高齢者は飲み忘れが多く、日誌の活用や薬剤師との連携を徹底

現状②③④

当院における肝疾患受療率(概算)

n : 1364



現状①②③

地域住民へ情報提供

Prob.1

- ・ 生活習慣関連、アルコール関連の肝疾患が多い

Prob.2

- ・ 正しい知識を提供することで、生活習慣の見直しにつながる

Prob.3

- ・ 肝臓専門医が非常勤のため常時いるわけではない

Prob.4

- ・ 当院での肝臓病教室の設立が難航

Prob.5

- ・ 自治体へ協力依頼

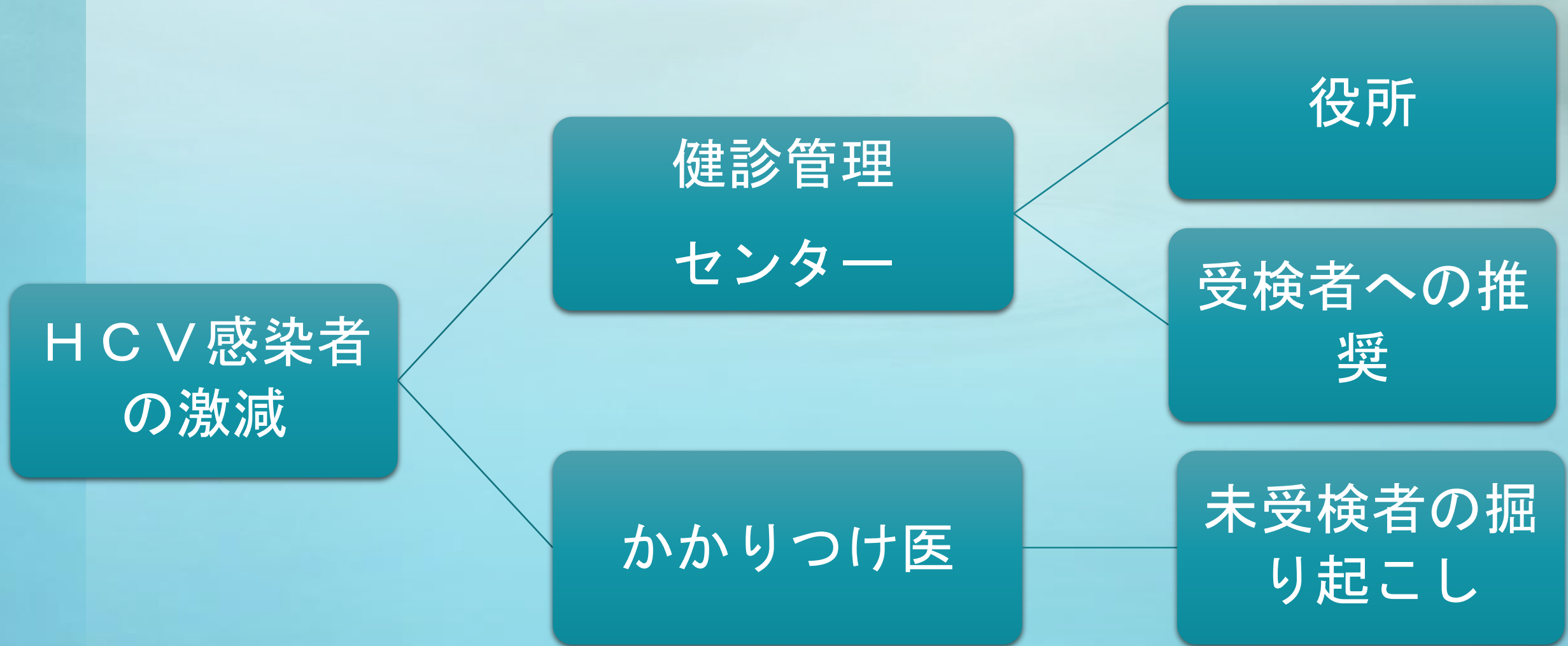
Prob.6

- ・ 地域住民へ向けて講演会を開く（肝臓専門医へ協力依頼）

現状④ 連携



HCV陽性者の掘り起こし(HCV検査の勧奨)

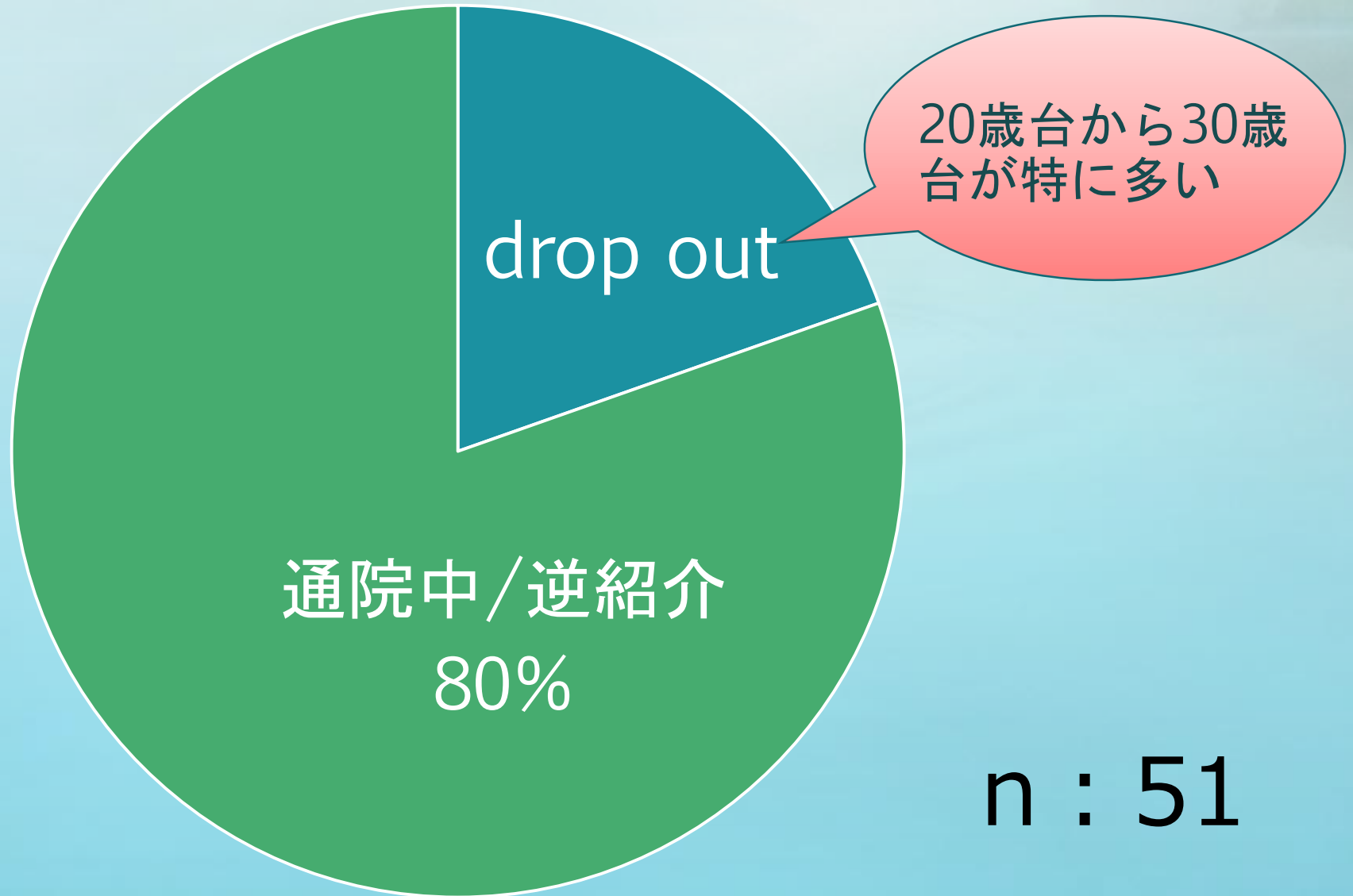




病院長と一緒にかかりつけ医へ 伺いました 「掘り起こしや連携の協力依頼」



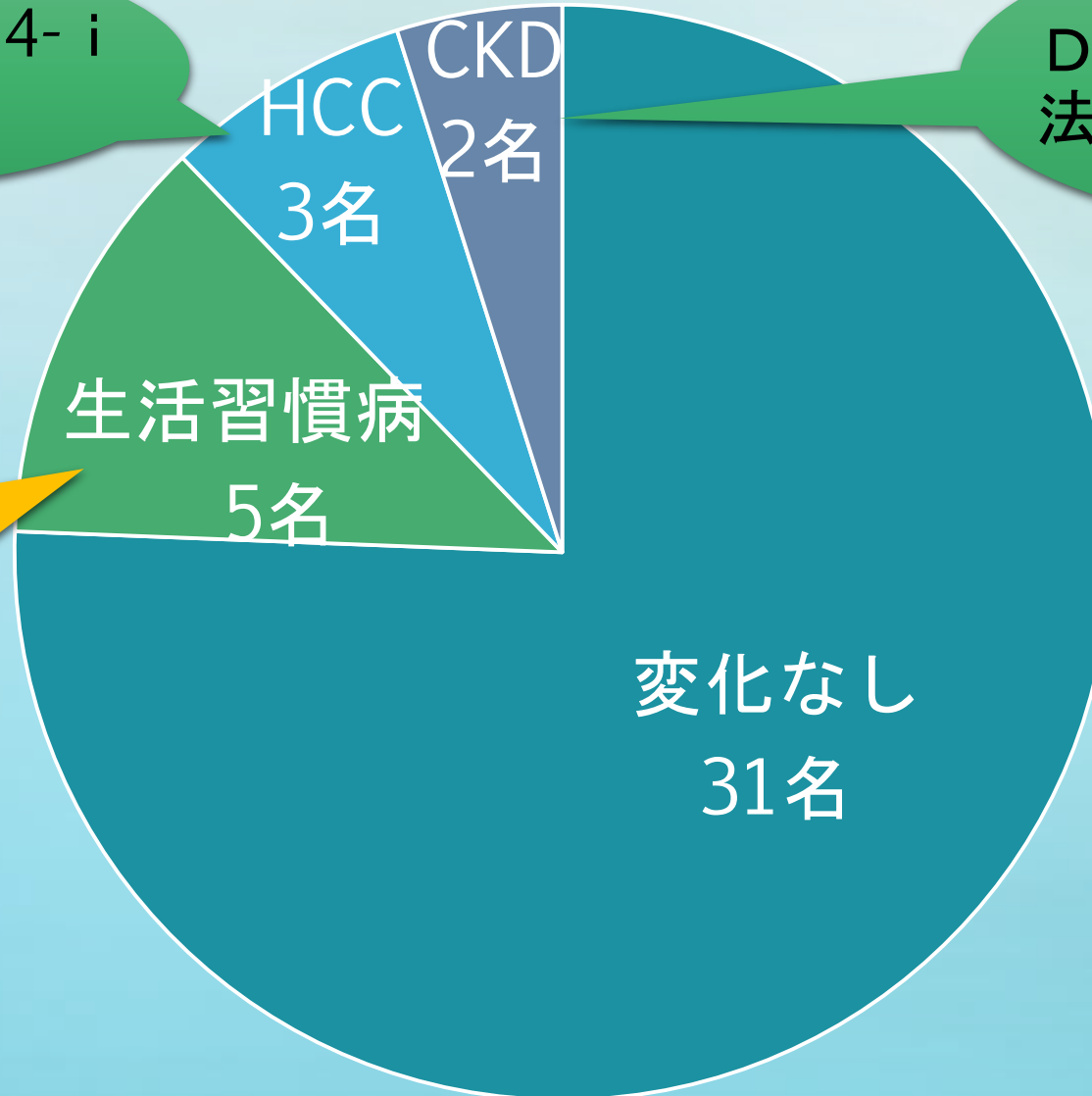
現状⑤ HCV治療後 フォローアップのサポート



SVR(ウイルス陰性化)後の変化 n=41

M2BPGi/Fib4-index,

DCV/ASV併用療法

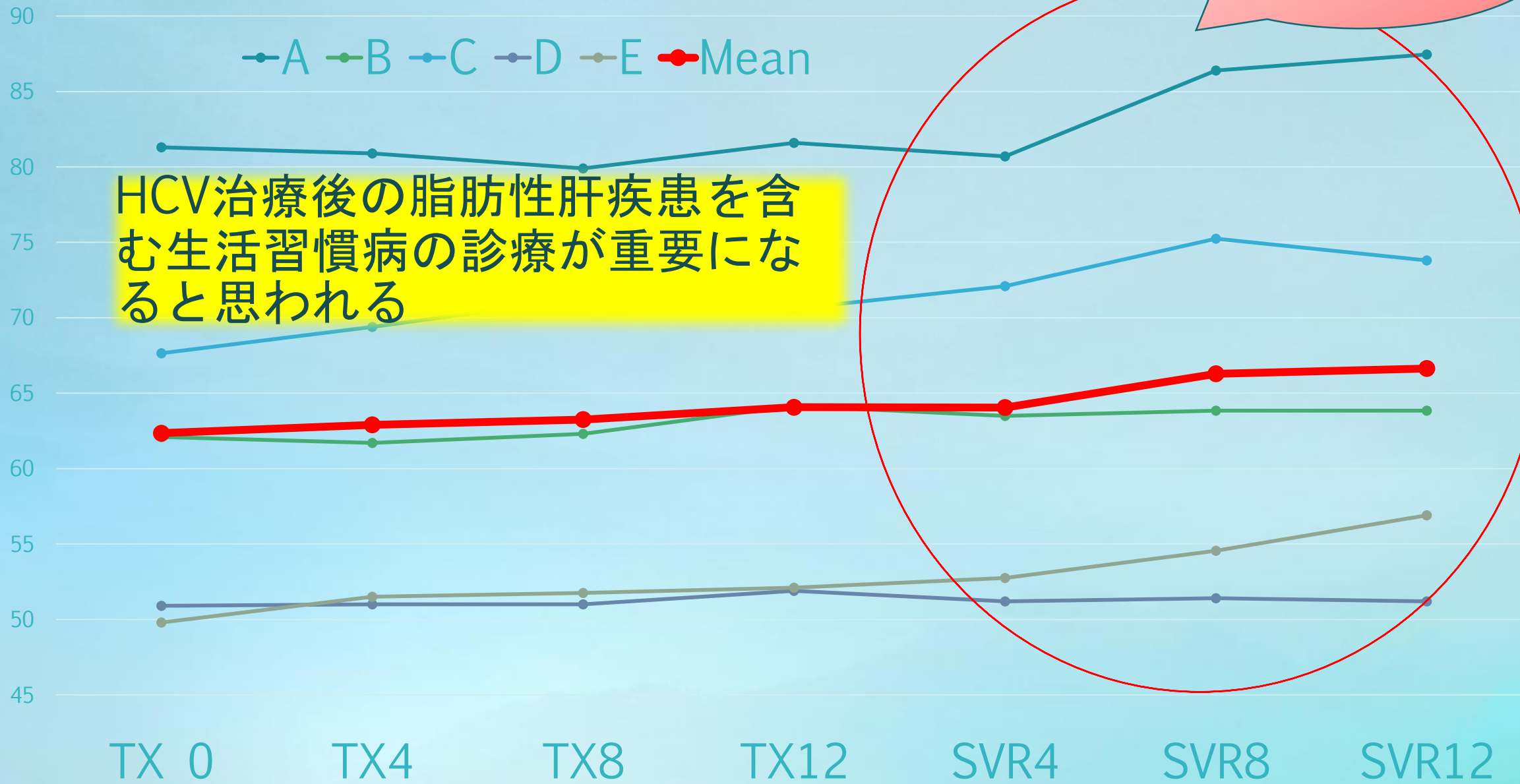


何か共通点があるのか...予防できる方法を探すため、焦点を当ててみる






生活習慣病発症者の体重の変化

治療後より体重の増加がみられる

HCV治療後の脂肪性肝疾患を含む生活習慣病の診療が重要になると思われる



患者背景

	date	age	sex	FIB4	M2BPGi	BMI (治療前)	BMI (治療後)	alc	tobacco	栄養指導
A	高尿酸血症	57	M	1.15	0.55	27.1	 29.2	常習	なし	済み
B	高尿酸血症	69	M	1.09	0.38	25.1	 25.8	なし	なし	済み
C	脂肪肝	69	M	1.60	0.65	24.2	 26.4	常習	30本/30年	済み
D	糖尿病	43	M	0.54	0.37	19.3	 19.5	常習	20本/15年	済み
E	脂肪肝	67	M	3.72	1.05	19.6	 22.5	常習	15本/45年	済み

活動のポイント

沖縄県北部地域には、
当院しか肝臓外来がない

HCV感染者数の激減

健康管理センターが
併設している

アルコール関連や生活
習慣関連の肝疾患が多
い

肝臓専門医が非常勤の
ため常時いるわけではな
い

通院するにあたり、かかりつ
け医との連携はかかせない

地域の特徴に即した活
動を進めていく

まとめ

- ・受検からフォローアップに繋げるためには、患者に寄り添った活動を継続していく必要がある。
- ・地域住民へ正しい知識を情報提供することにより、生活習慣の見直しや今後の受検率や肝炎ウィルス検査の検査率の変化を評価する必要がある。
- ・HCV患者の定期通院を継続して頂くために、個人に合わせた指導の工夫が必要である。
- ・SVR後の生活習慣病の発症要因に、環境因子や体質などの素因が関連している可能性が高い。生活指導及びコメディカルとの連携を充実し、改善できるようにしていく。

今後の課題

- 院内外で連携を取りながら、北部地域住民の方へのフォローアップのサポートをしていきたい。
- 肝炎ウィルス検査の勧奨を継続するために、かかりつけ医や役所、健康管理センターと連携をどのように図っていくか考察していく必要がある。
- 地域住民へ向けて勉強会を開き、情報提供を行っていく。そして、地域住民の方の正しい知識の向上と自治体や医療機関の相談の窓口になれるように構築していきたい。

ご清聴ありがとうございました

